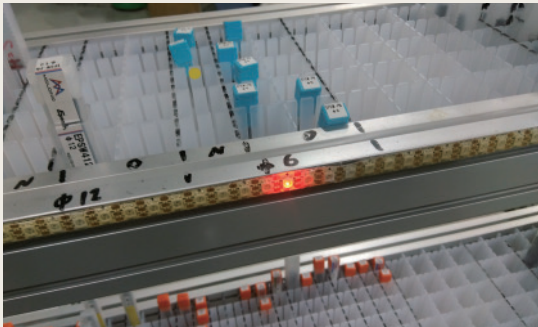
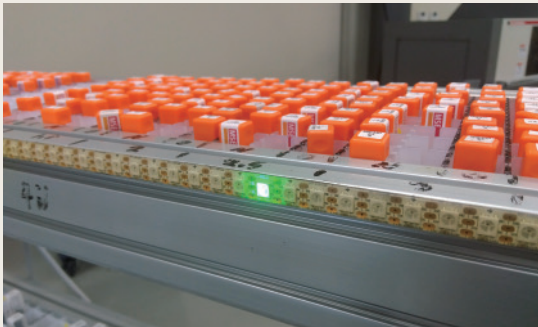


受賞のポイント

- POINT 1 誰でも工具が即座に収集可能になり業務の標準化が実現
- POINT 2 課題発見から解決までの取り組みを社員が担当
- POINT 3 工具収集の短時間化により工作機械の稼働率向上にも寄与



LEDが光って収納場所を知らせる



工具の残数も一目で把握できる

会社概要

商号：株式会社マイスター
設立：1980年7月
従業員数：79名
事業内容：刃物加工事業を中心に、切削工具や部品機械といった金属加工を展開。

お問い合わせ先

株式会社マイスター

〒991-0061
山形県寒河江市中央工業団地 156-1
TEL：0237-86-4500
FAX：0237-86-0252
e-mail：meister@ic-net.or.jp
URL：https://ymeister.co.jp/

らではの苦勞も感じていました。ベテラン社員たちの「自分たちの経験が不要になるのでは」という不安に「デジタル化には、培ってきたノウハウこそが非常に大切。未来に技能を継承していくために協力してほしい」と説得。社員の気持ちを受け止めながら、社内に Slack を導入するなど親しみやすいところから DX 化を進めたのです。

使う工具は1千種類
工具選びだけで30分

当社ではライン生産と異なり、一つ一つ違う製品を作っているため、必要な工具の種類も数も都度異なります。そこで課題となるのは、工具を歩き回って棚から探す膨大な手間。1つの製品の加工のために、約1000種類の工具の中から10〜30本の工具を収集せねばならないのですが、その作業に平均で30分ほどを要していました。さらに、

加工者は1つの製品を作るために、1人で同時に複数台の工作機械を稼働させます。工具収集に時間とられてしまうと機械を停滞させてしまう事もあり、結果として稼働率を低下させてしまします。

工具収集の時間を短縮するIoTシステムを開発し工作機械の稼働率を上げる事を目的として大学で開発を始めたのです。

工具選択の時間が大幅に短縮

「ム」は、LEDが点灯すること加工に必要な道具が、必要な順番通りにピックアップできるという画期的なシステム。工具収集に必要な時間は3分程度、従来の1/10となり大幅な時間短縮によって工作機械の稼働率向上につながったのです。「道具を使いこなす」ことを目的に、適切にデジタルを導入したことが成功の要因」とは高井氏。

このシステムの導入により、業務負担の軽減を体験した社員たちは、DX化にも前向きに。現在 RPA プロジェクトを立ち上げ業務の効率化を進めています。

管理のIoT化で、金属加工に必要な工具を即座にピックアップ

システムを自社開発し、業務効率が劇的に改善

受賞理由

- 従来 30 分かかっていた工具選択時間を 3 分に短縮
- 作業者の練度に関わらず簡単に検索が可能

IoT化を社内で推進育成のため大学を活用

寒河江市に本社を置く株式会社マイスターは、刃物加工事業を起源として現在は顧客のニーズにあわせた切削工具や治具部品等を製作しています。同社ではかねてよりDX化を



1980年、山形県河北町にて創業。刃物加工事業を起源に、切削工具や治具部品等の製作を展開。顧客の多様なニーズに応えるため、小型特殊装置の受託開発や企画から設計まで手掛ける。DX化を積極的に推進し、若手の活躍も多い。



加工プログラムから工具の収納場所を把握



TOHOKU DX
業務プロセス部門
優秀賞
(TISA 会長賞)

受賞件名

IoT工具管理システム開発による
段取時間の短縮

受賞者

株式会社マイスター

担当者

高井 糧氏
石川 諒氏